広報総社

こうほうそうじゃ
Soja City Public Relations

2006 10 OCTOBER
平成18年10月1日 No.19

［輝いている人］10p
Mikaさん

［まちの話題］8p
墨彩画公募展入選作品展　力石総社
夏休み少年少女鬼ノ城教室 ほか

［市政トピックス］4～5p
国道486号で通行規制
本の予約がホームページから可能に
災害時の応急措置の協定調印
なんでも鑑定団 出場者募集

［地産地食］19p
白大豆

特集　男の料理 2p

料理は楽しし

お知らせ 11～16p
ボイス 17p
人権 18p

●シリーズ● 6p
「やっぱりええなあ。総社のまち」「介護保険」「健康アドバイス」「市長室から」

広報総社 Soja City
2006
10
No.19
平成18年10月1日発行（毎月1回1日発行）
発行／総社市役所　編集／企画課秘書広報係
〒719-1192 岡山県総社市中央一丁目1番1号
電話0866（92）8214　FAX0866（93）9479
Eメール kikaku@city.soja.okayama.jp

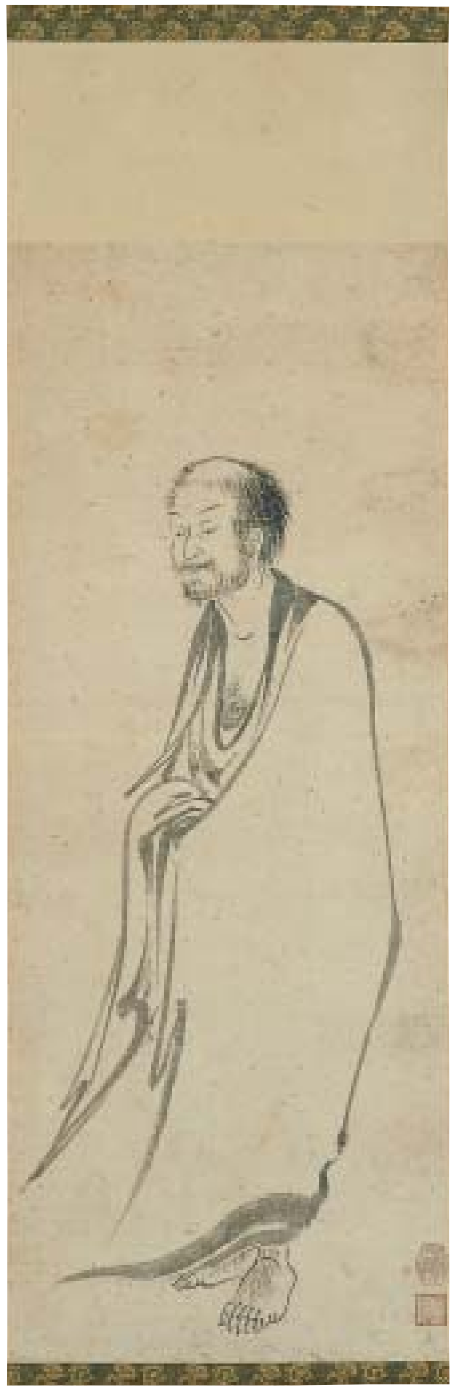
雪舟逍遥

（せっしゅうしょうよう）

せっしゅうそぞろ歩き

⑦

Sesshu　雪舟没後500年
Master of Ink and Brush: 500th Anniversary



「出山釈迦図」個人蔵
作者　拙宗等揚　室町時代

雪舟と拙宗

年若い雪舟が水墨画と密接な関わりのある禅林に飛び込んだこと、それもたどり着いた先が相国寺（京都市）であったことは何より幸いでした。相国寺の住持は春林周藤という厳しい禅の指導者であり、禅僧として成長するには恰好の場所でした。が、それ以上に雪舟にとって大きかったのは、そこが当時日本最大の水墨画家で室町将軍の御用絵師を務める天章周文から直接、指導を受けることのできる絶好の環境だったことです。しかし、最終的には繊細で瀟洒（気がきいている）、洗練を好む都の流儀が、彼の持ち味ともいえる荒々しく大胆な筆致（書きぶり）を容認し歓迎するはずがありませんでした。それが雪舟をして京都を去らせ、ついには前半生を切り捨てるような沈黙に至らしめたのではないでしょうか。

そして、彼が次に姿を現すのは周防山口（山口市）で雲谷庵という画房（アトリエ）を営む「雲谷等揚」という名の画僧としてでした。ちなみに、彼を訪ねた禅僧の翶之恵鳳が10年ぶりに対面したということから、彼が京都を離れたのは30代半ばだと考えても誤りではないでしょう。そこで、このおよそ10年間の空白期間に、これまで話題にしてきた井原市芳井町の重玄寺を訪れていた可能性は大きいと思います。

大内氏の城下町で、「西の京」と呼ばれていた山口から、彼は水墨画の故郷中国大陸へと出発します。博多から遣明船に乗ったのは48歳のときでした。そこで問題となるのは、彼が「雪舟」と号したのはこの入明の直前、45歳から47歳までの間ということです。ならば、それ以前、つまり雪舟と号する前は、果たして何という号でどんな作品を描いていたのかを検証しなければならないのです。その点で、近年大きな研究成果があがりました。「雪舟等楊」以前は「拙宗等揚」として制作していたことが判明したのです。今年11月に山口県立美術館で開かれる『雪舟の旅展』では明確に雪舟・拙宗同一人説が採られています。

文／岡山県立美術館学芸課長 守安 收

みんなで止めよう温暖化 チーム・マイナス6％
R100 古紙配合率100%再生紙使用
PRINTED WITH SOY INK
総社市役所は地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス６％」に賛同しています。広報そうじゃは、資源保護と環境保全のため古紙配合率100％再生紙と大豆油インキを使用しています。